



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099(26)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部

道標



今秋の列福決まる

薩摩の殉教者

レオ税所七右衛門

薩摩の殉教者・レオ税所七右衛門がその中に含まれている「日本一八八殉教者」の列福が二月の枢機卿会議を通過し、日本の教会は列福式の場所と日時についてバチカンからの正式発表を待つのみとなった。この日を目指して、四十年にわたり祈り続けてきた川内教会のこれまでの歩みをレポートした。

発端は

ヴィンデン神父

レオ七右衛門を川内教会の信徒に最初に紹介したのは一九六四年に着任したヴィンデン神父。神父はレオの信仰を顕彰し、その聖徳に敬うため殉教の日(十七日)に近い日曜日に、毎月、ロザリオの祈りを唱え始めた。レオが斬首の前「他のことなら殿に従うことができるが、信仰だけは棄てるのができない」と宣言したことは信者の記憶に刻まれている。

建立し巡礼を始めたハヌス 京泊教会跡地に記念碑を

昭和五十九年(一九八四)

五月末タム、ドウクの両師マニラで叙階

教区で働くベトナム人司祭として

叙階式とベトナムへ巡礼団を編成

テイエン、アン両司祭に続き、鹿兒島で働くタム、ドウクの二人のベトナム人司祭が五月三十一日(木)、マニラで司祭に叙階されることになった。

この喜ばしい叙階式に参加する巡礼団を募集することにした。団長は郡山健次郎司祭。叙階式参加後は、副団長の中野裕明神父、アン神父とともに彼らの故郷ベトナムのナチャン教区と有名な巡礼地を巡る。奮って参加して欲しい。現在、航空券代や宿代など交渉中



鹿兒島を磨きます ザビエル 野田啓介君

「タワシになつて鹿兒島を磨きます」と張り切っているのは、ザビエル教会所属の「のだ啓介」君、三十一歳。ザビエル幼稚園の卒園生でもある。

若者の無気力が指摘されるようになって久しい。指摘される世代の人間としては言われ

るほどやる気がないわけではなく、ただ「あきらめ」や「適度な折り合い」に流れただけ。自分らしさの主張を遠慮しがちな教会の若者もそれほど無気力ではないと思う。その証拠に私と同世代の彼が夢と理想と現実とが入り混じる政治の世界に飛び込もうとしている。鹿兒島の可能性を信じて世界に誇れる、輝く鹿兒島をつくりたい!と意気込む。そんな彼の熱意に触発される青年達も少なくない。政治を通して鹿兒島を変えたいと願う彼の熱意を通して、若者達が鹿兒島の教会を世界に誇れる教会に変える力になっていく日も近い?(N・K)

巡礼日程

5月30日(水)	鹿兒島発-福岡-マニラ泊
31日(木)	マニラ司教座聖堂での叙階式に参列 マニラ市内巡礼 マニラ泊
6月1日(金)	マニラ発-ホーチミン泊
6月2日(土)	ホーチミン発-フエとラバン巡礼 フエ泊
6月3日(日)	フエ発-ダナン経由-ニャチャン泊
6月4日(月)	ニャチャン発-ホーチミン市内巡礼 ホーチミン泊
6月5日(火)	ホーチミン市発-ボンタウ巡礼-マニラ泊
6月6日(水)	マニラ発-福岡-鹿兒島

司教ミサ、巡礼が行われるようになった。毎年二百人以上の参加者がある。 毎月の巡礼を

続けた信徒

ハヌス神父の転勤後、毎月十七日の京泊教会跡地への巡礼は下火になったが、一家族だけがそれを続けた。

午前三時三十分、幼い子供づれの家族は川内教会から十四キロの道のりを歩き、京泊教会跡地で朝食をとり、前日に置いておいた車で川内教会へ戻り、早朝のミサにあずかるというものの。この家族から司祭が誕生している。

世界召命祈願の日

4月29日は

神は、すべての人が誠実に自分の生涯を過ごすように招いています。ある人は社会の中で会社員、医師、看護師、教員、工場で働く人として、また夫、妻、父母としてよい家庭を築くように、そして、ある人は神とともに仕える司祭、修道者となるように招かれています。神の招きはどのように人それぞれ異体的になりませんが、自分に対する神の望みを祈りつつ探していくことが大切です。近年、司祭や修道者の減少、高齢化が進んでいます。とくに「世界召命祈願の日」には、司祭、修道者への招き(召命)に一人でも多くの人がこたえることができるように祈りましょう。この日は、教皇パウロ六世によって一九六四年に制定されました。

教区人事

- ▼O・ベルナルディーノ神父(種子島教会)は外国人司祭担当及びザビエル教会協力司祭
- ▼G・テイエン神父(ザビエル教会助任)は、種子島教会主任司祭
- ▼小隈憲士神父(聖心教会)は現職のまま奄美大島地区長
- ▼R・スガルボツザ神父(串間教会・聖サベリ才宣教会)は玉里教会主任司祭

- ▼大野和夫神父(奄美大島地区長)は同地区長館管理
- ▼G・サンタマリア神父(玉里教会・聖サベリ才宣教会)は大分教区へ

- ※着任は教区人事・司祭の異動とともに復活祭後
- ▼聖マリア学園人事
- ▼泉 浩二神父(加世田聖母及び枕崎分園副園長)は四月一日付、両幼稚園園長

YET

父親の命日に

当たる日に妻から「子どもができた」と告げられた。身が引き締まる思いがした。そしてなぜかしら亡き父のことを思い出した▼外面のよい、お人よしの父だったと思う。そのためか記憶にある父の人生は失敗続き。幼い頃から何回となく、書面に判をついたばかりに他人の借金を払うはめになった父の姿を見てきた。だから小学校の頃から「差し押さえ」「強制執行」「競売」なんて言葉を知っていた▼いつからか教会からも足を遠ざけた父だった。「二度と教会に行かない」そうも宣言した。共同体の仲間とも何かあったようだ。悲しんだのは母だったと思う▼人目を避けて電気をつけられない日も続いた。そして暗闇の中で、父のおおる焼酎の量は増えていった。苦しさを紛らせるためだったのか。家族との間にできた溝の深さを嘆いてのことだったのか▼そんな父とほんの少し心を通わせることができるようになったのは、父が病に冒されて半年の命となつてからだ▼教会から離れた父を多くの信者さんが見てくれた。肺癌がもとで脳腫瘍、子どものようになつた父は、それまでの人生を取り返したかのようによくしゃべり、そして輝いた。宣言した教会との関係も忘れてロザリオを枕元においての半年だった。縁を切ったはずなのに。何者かはそれでも諦めないということだったのか。

心と心でふれあった

教区の青年も日韓学生交流会に参加

日本と韓国の真の和解に向けて開催されている日韓学生交流会が、今年は二月二十二日から七日間、韓国清洲教区で行われた。

今回で第十三回となる同交流会は、日韓の両司教団が築こうとしている和解に向けた交流を「学生の間でも」という提案を受けて一九九七年に始まった。日本と韓国交互で開催され、日韓学生の出会いと和解のきっかけの場となつてい

る。来年は同時期に長崎で行われる予定。
以下、参加した郡山勇(たけお)君の感想。

日韓学生交流会では、はじめ清洲と大田の二つのグループに分かれてホームステイしながら福祉施設でのボランティア活動と観光、みんなで研修院に集まり歴史観光、フェスティバル、韓国・日本両国語のミサ等のプログラムを通して交流を深めました。
自分の語学力がとても心配で、言葉が通じないという壁は自分には大きく思われましたが、これを韓国の青年も日本から一緒に参加した青年も自分を優しく受け入れて、困ったときでも助けてくれたおかげで何不

学んで深く味わおう

四月から典礼研修会始まる

教区典礼委員会(担当責任者・頭島光神父)では、四月から七月まで毎月一回、別表のように典礼研修会を開催することにしました。

対象は各小教区の典礼委員会メンバーと宣教奉仕者(過去に選任された者も含む)、また主日のミサ典礼に奉仕している人のほか、興味のある人は誰でも参加できる。場所はザビエル教会一階ホールで、時間は午後一時半から四時まで。受講料は四回の研修合わせて二千円となっている。詳しくは頭島神父(TEL〇

	開催日	講師	テーマ
第1回	4/29(日)	桃園淳一郎助祭	ミサと日常生活の関わりから典礼を考える
第2回	5/27(日)	頭島 光神父	第二バチカン公会議の典礼憲章から聖体祭儀を学ぶ
第3回	6/17(日)	郡山健次郎司教	ミサとは何か?
第4回	7/22(日)	サンタマリア神父	四つの典礼季節の祭具の取り扱いについて

九九二八四一九六一〇)か桃園助祭(TEL〇九九二五四一七五一九)まで。

自由なく楽しむことができ、たように思います。そして、言葉で通じるのではなく心で通じ合えたように思いました。
この交流を通して、プログラムのテーマとなる「神の愛、隣人の愛」を文化や歴史、生活の中で見つけ体験することができました。一つひとつのプログラムで交流を深めていくことができ、楽しみや悲しみを共に

分かち合うことができたように思います。
考え方も感じ方も、言葉も生活様式も違う中で一つ一つの共通点を持つていて、それを信じているということやミサや夕の祈りの中で身に受け止めることができたこと、他のプログラムでは周りの人からたくさんさんの愛を与えられていることに気づくことができました。その中で自分も与えていることに気づかされることもありました。そして交流会に導いてくださったことに感謝!
(始良教会)

司教執務室便り

宣教名刺はいかが?

宣教という言葉は若者たちにどんな風に響いているのだろうか。月一回の分かち合いをしながらふと思うことがある。その場で宣教という言葉が語られたことは一度もない。しかし、毎回、新しい顔が絶えない。一度きりの人もいれば、すっかり定着した人もいる。

一体、どこでどんな風に声をかけるからこうも入れ替わり立ち代り顔を出す人が後を絶たないのか。しかも、参加者は数を増している。多くは信者だが、求道者、「神様よりも自分」だという未来の信者(未信者)。そう言えば、この間はプロテスタント

を名乗る人もいたな。とにかく多彩。
会長さんの携帯には常時連絡の取れる人が五十人も登録されているのだという。もしかしたら、「ね、ね、今度の土曜日、夜七時から、本部で分かち合いするんだけど来ない?」「分かち合いって?」「来たら分かるわよ。ネ、来てよ。」こんな乗りで誘うのかな。

ある日の集まりの後で、東方の博士たち来訪の御絵に「鹿兒島教区カトリック連合青年会」と白抜きされた名刺が配られた。裏には、集いの時間やミサの案内があつて下のほうには四角のバーコードが。

教えてもらいながら携帯に取り込むと、青年会のホームページが現れた。「神様とみんなの出会いの場になればいいな」だつて。さすがのボクも?目を見張ったナ。それにしても驚いたナ。名刺にバーコードとは!まさに、宣教名刺ダー!
携帯を駆使した若者たちの活動に、「携帯文化宣教アイデア賞」を贈呈してもいいかもしれない。

そう言えば、溝辺教会の封筒にもあつたな。宣教名刺に宣教封筒。早速ボクの名刺にもつけてもらおうかな。



宣教家族

新風

現在、鹿兒島教区は「宣教家族」を受け入れる準備をしています。「宣教家族」とは「新求道期間の道」を4年以上歩んでいる人たちで、自ら志願し、また周りからも推薦された家族が、くじをひいて示された土地へ家族ぐるみで宣教に出かける人たちのことです。行く先は必ず自国以外です。毎年、200組ぐらいの家族が教皇様の祝福を受けて、全世界へ派遣されています。日本へも20年以上前から10組ぐらいの宣教家族が来ています。鹿兒島に来る準備をしている家族は2組で、スペイン人とマレーシア人です。スペイン人の家族は30歳代前半の夫婦と6人の子供たちです。マレーシア人の家族は30歳代後半の夫婦と2人の子供たちです。外国から日本に入学する場合、入国の査証(ビザ)取得するための事前調査に当たる「有資格証明証」を入国管理局に申請しなければなりません。この場合、入国の目的が厳しく問われます。教会関係で入学する人たちのためには宗教ビザがあります。その申請書の項目に職業の欄があるのですが、司祭の場合はそこに宣教師と

書き、その身分を証明するものがあれば何の問題ありません。しかし今回の場合は家族ぐるみの宣教師、しかし身分は信徒というこれまでにない形なので、入管の係官は戸惑い、「信徒の身分なのに何故宣教師なのか」問いただしてきました。「プロテスタントの牧師一家なら分かるがカトリックにもそういう身分があるのか」といった内容の質問でした。

そういえば、カトリック教会ではこれまで宣教師というと、司祭、修道者に限られていました。司祭、修道者は宣教する人、信徒は宣教される人。司祭の中でも教区司祭は司牧する人、外国から来ている司祭が宣教師というのが一般的な理解だつたと思います。しかし、第二バチカン会議は、宣教は身分ではなく、洗礼と堅信の秘跡から生じる使命であると教えました。換言すれば、その使命はキリスト自身から来る、というのです。とすれば、「キリスト信者は皆宣教師である」と言えます。新しい時代にふさわしい新しい宣教の形へと意識の変換が求められています。

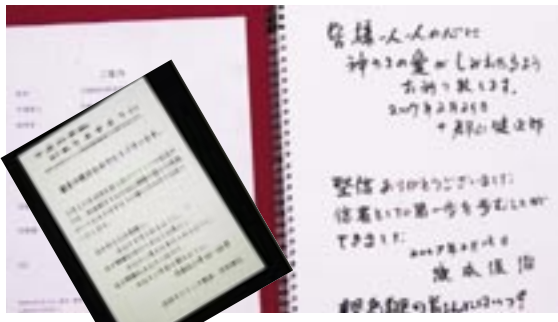
(H・N)

心つなぐ一枚の葉書を信徒へ

霊名の祝日に大松神父(出水教会)

来年、献堂五十年を迎える出水教会で素敵な動きが起っている。

一つはまだ聖堂に置かれたばかりの「訪問者日記」。教会を訪ねてくれた人が、その思いを記すことがで



訪問者日記と葉書

きるようになっていく。二月下旬からというその日記の第一頁を飾っているのは、二十五日の聖信式のために訪問した郡山司教の言葉と、その日、受堅の恵みに浴した滝本俊治さんのもの。この日の感動を滝本さんは「信者としての第一歩を記すことができました」と記している。そのほか数人が教会を訪れた折りの感想を記していた。ちよつとした工夫で「迎えられた」という気分になるから不思議だ。昨年からの信徒数百八十名のこの出水教会を担当しているのは大松正弘神父(レデンプトール

会・四十九歳)。「教会を家庭的な雰囲気であらう」と昨年十月から、信徒の霊名の祝日に祝福のハガキを送り始めた。霊名の祝日を迎えた信徒の名前は、もちろん同教会の機関紙「アゴラ」にも毎月記される。にもかかわらず、一人ひとりに主任司教が送るといい。霊名の祝日に、その人のためにミサの中で祈ると宣言されているのがある。「教会から離れていた方からも感謝の電話があったりする」と嬉しそうに大松神父。「離れている人はちよつと来にくくなっただけ。わずかなきつかけを作ってあげたい」とも言う。

この春には「参加し交わり証する小教区」を目標に

掲げ、そのスローガンも掛け軸にすると張り切っている大松神父。「パウロが宣教にあの手この手を使つたように、私も」と、その

もう一度キリスト者となるために

女性信徒の会が黙想会

「共同体の信仰を強めるために」をテーマにした鹿児島カトリック女性信徒の会(平野博美会長)の黙想会が、三月十四日(水)カテドラルであった。講師はマルコ・ヴィ



ゴロ神父(鹿屋教会・聖ザベリオ宣教会)。午前と午後、二回の講話を行った。講師はマルコ・ヴィ

「短信」

▼鹿児島きぼうの電話

四月一日付で河南徳子さん(ザビエル)に代わり本村裕之さん(谷山)が委員長に、事務局長には松村恵理さん(吉野)が就任した。

▼枕崎で小さな卒園式

加世田聖母幼稚園の分園になる枕崎幼稚園で三月十七日(土)、卒園生わずか二人という小さな卒園式があった。

訃報

▼大木エイ修道女

マリアの宣教師フラン

たマルコ神父は、集まった七十余人の会員たちを「共同体が変わるためには個人レベルでの成長が欠かせない。それぞれ回心して、もう一度キリスト者となり女性特有の生き方で使徒職を果たすよう」励ました。

黙想会の終わりにはミサがささげられ、この日の黙想の実に感謝して散会した。

シスコ修道会古仁屋修道院のシスター・ベルナデッタ(ヤコボ)大木エイが、一月二十六日(金)、急性心筋梗塞のため古仁屋修道院において天に召された。八十三歳だった。

山形県出身のシスターは、一九五一年に同会入会、二〇〇四年から古仁屋修道院で働いていた。

入来教会の奉仕作業中に転落死。ドミニコ平 雪雄さん(七十二歳)

三月七日(水)午前九時、平雪雄さんは、信徒会館の屋根の塗装作業中、転落し救急車で病院に運ばれたが、出血多量のため翌日死亡した。平さんは始良教会所属の信者で、娘一家の所属する入来教会をよく訪れていた。奉仕作業は自ら申し出たもので、信徒会館の屋根の塗装を手がけ、仕上がり間近だった。平さんはブラジルからの帰国者で司祭や教会のお世話をよくしていた。

ザビエル旧聖堂再生へ起工式―4月15日―

解体から九年が経過した「ザビエル旧聖堂」がNPO法人文化財保存工芸研究室(土田充義理事長)の手で宗像市の福岡黙想の家(受難会修道会)の敷地に再生されることになった。再生へのスタートをきる起工式は四月十五日(日)十四時から現地で行われる。

▼『聖堂再生』を出版

編集者である松山さんは、プロロー



グで「ザビエル旧聖堂がどういう歴史を背負って再生されるのか」としているのか過去の経緯や記録、建築物としての魅力などを一冊にまとめた」と本の内容を紹介している。定価千円(消費税別)

4月

今月の暦

1日(日) 受難の主日(枝の主日)
「世界青年の日」

教皇ヨハネ・パウロ二世は一九八五年三月三十一日(受難の主日)、国連制定の国際青年年にあたって全世界の青年たちにメッセージを発表し、その翌年から「世界青年の日」を毎年、受難の主日(枝の主日)に祝うよう定められた。それとともに一九八七年以来、「国際青年フォーラム」と「世界青年の日」記念式典が教皇臨席のもと開催され、全世界から大勢の若者が集まるようになり、以後、各地で開催されてきました。イレスで開かれ、以後、各地で開催されてきました。次回は、二〇〇八年にオーストラリアのシドニーで開かれる予定です。

2日(月) 中野裕明神父叙階記念日(一九七八年)
5日(木) 聖木曜日(主の晩さん)
6日(金) 聖金曜日(主の受難)(大斎・小斎)
「聖地のための献金」

十四世紀中頃、教皇クレメンス六世は、パレスチナ各地の巡礼所とヨーロッパから巡礼者保護をフランシスコ会に委託しました。その後、政情不安定な聖地で苦勞している修道者たちを支えるために行われるようになった献金は、いつのころからか主の受難と死を記念する聖金曜日にささげられるようになりました。そして教皇レオ十三世は一九八七年、カトリック教会のすべての小教区にこの聖地のための献金を命じました。全世界の教会からローマ教皇庁に集められる献金は、現在、イスラエル、ヨルダン、キプロス、パレスチナ自治区内にある数多くの巡礼所や聖堂などの維持管理に充てられるほか、聖地の貧しい兄弟のための福祉施設や教育施設の運営、奨学金や生活保護などのために使われています。

- 7日(土) 聖土曜日(聖ザビエル誕生の日)
- 8日(日) 復活の主日
- 11日(水) フリチエル神父叙階記念日(一九五五年)
- 15日(日) 復活節第二主日(神のいつくしみの主日)
- 18日(水) 松森孝郎神父叙階記念日(一九七一年)
- 22日(日) 復活節第三主日
- 25日(水) 聖マルコ福音記者
- ▼マイエル神父命日(一九七八年)
- ▼ハンマ神父叙階記念日(一九六三年)
- ▼アッシュヤー神父叙階記念日(一九六四年)
- ▼復活節第四主日(世界召命祈願の日)
- ▼橋口啓悟神父叙階記念日(一九六四年)
- ▼典札研修会・ザビエル教会・13時30分

聖櫃に十字架 マリア像

カテドラルをより神聖に

カテドラルの主聖堂と小聖堂にちよつとした変化があった。

先に変化を見せたのは小聖堂。これまで正面壁面に直接掛けられていたキリスト像(横尾龍彦作)だが、その背中に十字架が設けら



主聖堂の聖櫃

れた。十字架の上で、それでも柔らかな顔を見せるキリスト像が祈る人を励ましてくれている。

主聖堂に足を運び入れると内陣の変化に驚く。右手に聖櫃が置かれ逆サイドにはりつばなマリア像が置かれたからだ。聖櫃を乗せているのは南九州小神学院で使用していたもの。その台に旧ザビエル聖堂で使用していた口ウソク立てで装飾を施し、見事なものに仕上

げられている。時機をみて聖櫃が安置されるようになるという。これら二つの台と小聖堂の十字架の製作者は、手先が器用で、そのセ

シリーズ「教区財政を考える」⑥ 同じ信仰を持つ仲間と暮らしたい

〇はじめに

「信者たちは皆一つになつて、すべての物を共有にし、財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとを集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」(使徒言行録二章44〜47節)

この文章は聖霊降臨後間もない頃の信者の共同体の様子を描いたものです。この生まれたばかりの教会の在り方を理想とした社会をつくる試みが、十九世紀初頭、西欧でありました。空想的社会主義、いわゆる「ユートピア」と呼ばれるこの思想は、その後間もなく、カール・マルクスの提唱する科学的共産主義に取って代わられ、その思想は二十世紀の歴史の舞台で確固たる地位を築くことになりました。

使徒言行録に記されている教会の姿を夢見ている人々がいいます。それは、毎月二回集う「ゆらいあい」のメンバーたちです。この集いは二〇〇二年から始められたもので、カトリック看護協会のメンバーが教会の中で、高齢者のためになることを目指して発案された集いです。内容は午前十一時から、ミサ、昼食、レクリエーションと続き、午後二時半には終了します。毎回、糸永真一司教様がミサをささげてくださいます。この集いが始まってから徐々にボランティア、参加者とも

四月から

マリア山荘黙想会

昨年からは始められ好評だったマリア山荘黙想会が下記の日程で今年も四月から始まる。日帰り黙想は弁当を含み会費千五百円。一泊黙想は食事代込みで三千五百円となっている。申込はハガキかFAXでマリア山荘へ。〒八九九一六四〇四霧島市溝辺町麓三六一六一四 TEL 〇九九五五八四三三〇

日帰り黙想会		※木曜日・十時半から十五時
第一回	四月二十六日	信仰の光をうけて
第二回	五月二十四日	信仰は愛を生む
第三回	六月二十八日	希望によって命は輝く
一泊黙想会		※土曜日十六時半から日曜日十一時半
第一回	五月十二・十三日	信仰の光をうけて
第二回	六月九・十日	信仰は愛を生む
第三回	七月七・八日	希望によって命は輝く

に増え、現在では年間累計で四百六十人ほどのボランティアに三十人の専門のサポーターがいます。これまでの参加者は累計で二千人に上ります。〇「ハコモノ」が欲しい!

文芸

俳句 (思川俳句会作品)

鹿児島 春山マリ子
心持ち桜ほころび春を待つ
(評) 少しずつつぼみが開く清しさを「心持ち桜ほころび」と詠んで佳作とした。

純心学園 川上 和
みやげにと梅ヶ枝餅のあたたかさ
鹿児島 本城 愛
蓑虫の宿る小鉢や枝垂桜
純心学園 山頭信子
母の忌に摘み草したり母子草
(評) 結句がよい。

鹿児島 徳永ノブ子
風光る流れる雲の美しき
阿久根 中津濱フサエ
藪椿ぼつりぼつりと見えにけり
出水 遠竹睦郎
久々の新幹線の春の旅

出水 沖 弘子

やはらかき光を浴びて豆の花
選者詠
曲水や筆の流れを運びけり

短歌 (思川短歌会作品)

純心学園 川上 和
洛中の風俗画く金屏風昔も今も桜がおどる
(評) 伊藤若沖の江戸屏風を覚える佳作。「桜がおどる」の結句がよい。
大口 森 博伸
みこころになにを語るや手を合わせ灯りを見つめる妻のほほえみ
阿久根 中津濱フサエ
ひたすらに眠れぬ心夜もすがらあくまのいたずらと神に祈りつ

鹿児島 前田儀子
花言葉思はせぶりとふ蒲公英の黄色き
花冠は背をかかめ咲く
出水 遠竹睦郎
校庭に桜吹雪の舞ふ春日吾れ入学を許

純心学園 田村鏡子

トンネルをぬけて朝の空気吸うかすかに
聴かん春のせせらぎを

鹿児島 春山マリ子
オルゴールに流るる乙女の祈りくりかえし聞くメロディーの心に染みて

阿久根 窪田ヒサエ
ともすれば弱き心のきざす時すべては聖母にゆだねて祈る

阿久根 眞清水 藍
わが逝かん日にもかく降れ鎮魂の調べに似たる今日の淡雪
奄美 林 常広
折々に言いあらそいを妻とする主の祈りして平和で終わる

奄美 林 明子
リズムとりひとりミュージカルのまくが
あきおじぎをするかがみをのぞきて

選者詠
桜島峰を覆ひし白光は忘れ雪かもひと日輝く

時を経るごとに実績を積み、参加者の増加が見込まれる今、この集いは一つの大きな決断を迫られています。このままこのスタイルを続けるのか、あるいは思い切つて、この地に何らかの施設をつくるのかの選択です。この小さな、しかし、内容が充実してきたこの集いを、恒久的で確実なものにし、教会の福音宣教の使命にかなうものであるならば、また、介護を必要とする年齢に達する以前から、そこで暮らし、仲間と信仰を分かち合い、神様を賛美する日々を送られたら、もちろん引退した司教、司祭や修道者とともに暮らし、霊的糧を分かち合つてもらえたら、信者としてこんなに幸せなことはありません。

〇この夢を聞いて郡山司教は？
「それはすばらしい。一人が一つの夢を見てもそれは実現しないが、十人が一つの同じ夢を見るなら、それは実現します」と言われ、賛同の意思を表明しました。
〇これを聞いて教区の会計係は？
「ゆらいあい」の皆さんがこれまで培ってこられた考え、具体的にイメージしている事柄を文章にして提出してください。そうすれば、教区内のしかるべきあらゆる決定機関に諮つて、具体的道筋を整えましょう、とこたえましました。

これは今後、鹿児島教区の大きなプロジェクトになりそうです。
(教区会計担当 中野裕明)

鹿児島らしく祝いたい

ザビエル様の歡歩道
前回の実行委員会で、ある委員から「上陸にこだわることなくザビエルすべてを祝う意味で『ザビエル上陸記念祭』を改め『ザビエル祭』にしては？」という提案があった。それにこたえて別の委員が『上陸』は鹿児島にしかない特徴だから大事にしたい」との意見。結局名称変更には至らなかった。



今年はいよいよレオ七右衛門が列福される。川内教会が中心になって教区で祝ってきた川内殉教祭、屋久島で自治体が主体になって祝っているシドッチ祭、全世界で知られているザビエルの日本初上陸を祝うザビエル祭。鹿児島には人が集い、祝い、そして信仰を証する機会になる祭がそれぞれ特色を活かして続けられている。今後は是非、鹿児島らしさを活かして盛り上げ、未信者の人々にも信仰のすばらしさを伝えて行きたい。
今年、生誕五〇一年目を迎えるザビエル様の誕生日、四月七日にはやはり特別に思い出して祈りたいものだ。

黙想会のご案内

指導：W・キップス神父 (レデンプトール会)
日時：4月28日(土) 10時～29日(日) 16時
場所：マリア山荘 (霧島市溝辺町麓 3616-4 TEL 0995-58-2994)
申込先：西 (TEL / 0995-63-1943)
宮地 (TEL / 099-262-4022)



へえ、日本の教会は今こうなんだ・・・
ザビエル

カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の購読者様のお手元へ毎週直達いたします。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。

〒125-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com

カトリック新聞
1部本体価格150円(税・送料別)
購読料金(前納、税・送料込)
半年4740円・1年9480円

見本紙贈呈いたします